提言第17号　中心静脈カテーテル挿入・抜去に係る死亡事例の分析－第2報（改訂版）
事例34
＜事例概要＞ 迷入 ① 80 歳代、急性スタンフォードA型大動脈解離に対する部分弓部置換術後の患者。 ② 術後管理と栄養管理のため、中心静脈カテーテルを留置予定。 ③ BMI 35.2 kg/m^2。脱水あり。抗血栓薬の使用は無。 ④ 左内頚静脈よりリアルタイム超音波ガイド下で穿刺。超音波の長軸像でガイドワイヤーの位置を確認し、カテーテルを挿入、スムーズな逆血を認めX線を確認後、輸液開始。 輸液開始4日目、心室細動となり心肺停止。救急蘇生により心拍再開。CT で心タンポナーデを認め、心嚢ドレナージ術を施行し、600 mℓ 排液あり。X線でカテーテル先端の位置異常、造影で血管外漏出を認め、カテーテルを抜去。頭部CT で広範囲低酸素脳症を認め、約1 週間後に死亡。 ⑤ 死因は、左内頚静脈カテーテル先端が体動などの影響などで移動したことによる遅発性の左腕頭静脈損傷（疑い）に伴う心タンポナーデ、広範囲低酸素脳症。死亡時画像診断（Ai）無、解剖有。